

IV. ふりかえる会アンケート結果

アンケート質問項目

問1 この催しを何で知りましたか

(1. 公民館だより、2. ポスター、3. ちらし、4. 友人・知人、5. その他)

問2 過去、公民館の講座に何回くらい参加されていますか

(1. はじめて、2. 2～5回、3. 6～9回、4. 10回以上)

問3 本日は、どちらのグループに参加されましたか (A. くにたちブッククラブ、B. ふれあいひろば、C. 認知症とともに生きる、D. 市制施行50周年記念事業)

アンケート回答内容

※「□□」は、読み取れなかった部分です。

番号	問1	問2	問3	感想
1	4	4	D	「ふりかえり」という名の評価だというので、もっと厳しく見るものだと考えていましたが、私の参加したグループも含めて、公民館関係者(?)からは肯定的な意見が多く、がっかりしました。また、批判をしてはまずい雰囲気も一部に感じられ残念です。「評価」は当事者がすればよいのであって、公けの「評価」などは必要ないと思っていますが、評価をするのであれば、「良かった」ということをまずは捨てて、いろいろな角度から問題はなかったのか検討し、あるいは、参加しなかった人の想いを想像できればよいと思います。そのような「ふりかえり」を職員一人一人が出来ているならばわざわざ「ふりかえる会」を開く必要はないと思います。職員が参加者と意見交換し、また職員が街に出て公民館活動についての市民の意見を聞くことで、よりよい公民館になると思います。
2	5	4	D	職員の方々の創意、工夫、熱意を理解してもらえたのではないかな。市民側も盛り上げる努力が必要と思う(公民館がカルチャー化と誤解されぬ様に)。一方、講座の有効性について(公民館の存在意義にかかわる)第三者を説得するものでありたい。4グループに共通した課題事項を整理し今後の指針にしたい。全体のまとめはアニュアルレポートに担当する内容として公式化したい。公運審委員の方々に期待する。講座向上のための□□されたことはよい。全体の活動が□□だ。
3	1	4	A	今回の集まりは極めて有意義で毎年市民を巻き込んだ「みかえり討論」を！①今更ながら改めて職員の皆様の努力、行動力に敬意を表せざるを得ません。②問3中、Aは伝統ある講座で、メンバーの学識レベルが高い為新入生に壁を意識させやすい事になる。すばらしいクラブの運用パターンを維持できる。曜日変更テキストの選定等々検討したらと感じた。続ける要素、理念と変更できるものとの区別をして。③問3中のB、C、Dは未だ市民の意見集約に苦勞する、公民館と市民の共創レベルを思う。壁にぶつかることもあるが発想の自由度は多いのではないかな。※毎月お世話になり、有難うございます。
4	5	4	D	文学講座に参加して10年くらいになります。2017年度は全く参加出来ませんでした。久しぶりにメンバーに会えると思い参加しました。今日はAグループではなくDグループに出ました。公民館のイベント(講座)に若者の参加が少ないことはどこの公民館でも同じ悩みだと思う。国立公民館では、若者が関心のある内容の講座もよく行っていると思う。若者のつき当たっている問題は年齢を問わずみんなにとって大事な問題だと思う。
5	1、3、4	4	A	単に話を聞くだけかと思っていたがそうではなかった。なかなか、継続して参加してくれない若年者対策としては他の講座でやっているようなアンケートを毎回書いてもらうのはどうか。特に初めて参加してくれた人に対してはその答えを見て、一本づり。
6	1、3	4	D	話し合うことは(お聞きすることは)出来なかったが、今回取り上げた講座はなぜ取り上げられたのか、なぜ他の講座ではなかったのか、を知りたかった。公民館では時代や社会を考える講座に力を入れてもらいたいと思っているがそういう公民館事業のおおきな柱であるものを取り上げ、考えたかった。

番号	問1	問2	問3	感想
7	1、4	2	C	意見も活発であり、初めて参加された方もいたが前向きの発言で良かった。これからの運営に期待が持てた。
8	4	2	-	時間の都合で、第一部だけで退室しました。また機会があれば参加したいです。
9	-	4	C	第3部の報告を聞いて。ふれあいひろばについて。社会教育は、学校教育を除く主に青少年・成人の学心のためのものであるという社会教育法の規定（2条か3条）も忘れないで企画してほしい。「共生」の項目として何を学んだのか。公民館は社会教育・学ぶ場ですので。
10	3、4	4	C	各グループの皆さんのお話をも聞ければ良かったです。私達のグループでは皆さんの認知症（C）に関する意見が多かったと思います。現実への関心が強かったと思います。自分に最も身近な事に強く関心を持ちました。何事も知識を持って向き合う事の必要を再認をしました。今後の事業を期待しております。職員の皆様に感謝しております。乱筆にて失礼致しました。
11	1	4	C	いろいろな方と話し合いが出来て有意義でした。いつまでも国立らしい公民館であってほしいと念じています。参加するだけしか出来ませんがずっと見守りつづけていきたいと思っています。
12	4	2	C	いっぱい話が来て聞くことも出来て楽しかったです。また、実行委員会で色々話を出し合っているのに外（他の人）からの意見を聞くにつけ、まだまだ自分自身が何も深く認知症や介護について納得していないんだなあと感じました。別の人の意見が入るのはいいですね。
13	1	-	B	部屋のキャパシティの問題もあると思いますがもっと一般市民の方が参加していただいた方がよいと思います。当事者の深い話も大切ではありますが。高下さんが言われたように、参加しなかった人の多様な意見こそ講座の充実に欠かせないと思います。
14	3	4	B	始めて4年、4回が終わった事情ですが、改めて公民館の位置づけを考える機会になりました。続けていくうちにもっと交流の広がり、子供達の自主性を育む場にもなり得るかもしれませんね。公民館には子供は来ないといった反応は公民館の中ではなく発言者の周りに多かったのです。言葉足らずでした。ごめんなさい。今回はありがとうございました。これからもよろしくお願いします。
15	3	4	-	1部の発表は各々、とても分かりやすく良かったと思います。3部での報告を聞き公民館講座は、準備の段階から丁寧に行われ成功したのだと思います。「ふれあいひろば」での話し合いを通じこれからも継続してほしいと思いました。ありがとうございました。
16	4	2	C	本を読む習慣が無い職員を公民館に配置しないでいただきたいと思いました。「民主的社会の運営」とは何かということを考えたり議論をした経験が無い、浅いと思われる職員と市民の声が多かったように思いました。地域で生きる、地域で多様な市民が支え合って高め合って学び、生き、信頼関係を深め合う場としての公民館の現場の実態を眺める機会が得られて良かったです。
17	5	1	A	今までどの講座にも参加したことがありませんでしたが、今回参加して4つの講座について深く知ることが出来興味を持つことが出来ました。今回の様な会が増えることにより各講座の参加者が増えるのでは...と思いました。

番号	問1	問2	問3	感想
18	5	3	B	職員の方が思い入れを持って各講座を企画し、市民のさまざまな運営団体が参加協力して開催されることを改めて感じました。世代間交流事業もこの3年くらいで協力団体も多く充実してきた様子もよくわかり、公民館でも世代間の交流を大切に考えていることを改めて知り、うれしく思いました。参加者の方々も、熱心に意見を出し合い、これを生かして次年度以降さらに市民に求められる公民館講座につなげていかれるといいなと思います。
19	5	2	B	紙面上でしか講座の感想や思い（企画意図）が知ることが出来ませんでした。今回の企画により、企画者・参加者（不参加も）の声を聞くことが出来ました。感想に載るのは良いものになりがちですが、課題、反省も含んだ生の声を聞くことが出来た点が有意義でした。しかし、この会への参加者層を見ても、若年者は少なく、周知の仕方、運営の仕方にも更なる工夫が必要なのだらうと感じました。
20	4	4	C	【1】の区分の講座が取り上げられていなかったが、ふりかえる会としては、バランス上BとCは同じ区分になるので、どちらか片方にして【1】からの講座を入れた方が良かった。市制50周年事業の講座は国立出身の社会的地位の高い方が講師ということと、若い人に関心をもってもらうという目的が合致しているとは思えない。この目的であれば、講師選定をもっと考える必要があったと思う。担当者の方は大きなイベントで大変だったと思うが。
21	5	2	B	実際に参加されている人の想いや、当日のご苦勞、成果を伺うことができ、主催事業として、ふれあい広場の重要性を実感することが出来ました。ありがとうございました。
22	3	2	A	講座はやりっぱなしになりがちであるが、こうした振り返りを行うことにより、次の講座を充実させることが可能となる。ブッククラブのように、きちんとペーパーでその成果を残しておくことが大切です。又、より多くの参加者を募るため、企画力が一つのポイントとなると思います。企画—実行—見直しのサイクルがうまく回っていくといいですね。職員の皆さん、今後がんばってください。
23	5	4	A	講座の常連のメンバーと共にブッククラブに参加していない人の意見や関心が聞けて面白かったです。今後も色々な人が参加出来る様、又、初めて参加した人が継続して参加する気になるような働きかけや、お茶会の工夫も必要かなと思いました。
24	5	4	B	公民館の職員の方のお話を聞く機会が少ないし、多くの活動をしていらっしゃる方のお話を聞く機会もほぼない（公民館だよりは一応目を通してはつもりだったが甘かった）ので、生のお声が聞けてとても貴重な時間だった。こういう機会はとても重要だと思う。ネガティブな意見も重要だとおもった。
25	1、3、5	4	A	石田館長の最初のお話で、「公民館不要」という論があるとは冗談かと思いました。本当にそんな意見があるとすれば由々しい事です。応援します。（全職員10名というのは本当？とびっくりしました）。Bグループの発表から：4年前から公民館は変わった（それまで子どもの来る場ではなかった）というのは、私も驚いたことです。が、公民館保育室のある場でしたが、やはり大人の館とっていました。建物のつくりが、子どもを目に入れていないと思います（事故が起こらなければいいけど）。“子どもから高齢者へ教える”という課題をぜひ実現させてください。それには建て替えもあり？Dグループの発表から：申込み方法は、往復ハガキのみでなくメールでも可にしては？それぞれに抽選するというのは手間かもしれません。Cグループから：「当事者」について、ケアされる側として、弱者としてではなく、サービスを買う側面にも、フェミニズムの学知を得て学びたい。

番号	問1	問2	問3	感想
26	5	4	A	<p>全体を通してですが、なぜこれらの活動を公民館がやるのかということについて、（Aなら図書館、Bなら児童館、Cなら地域包括、Dなら市長室ではないかという問いに対して）ひとえに市民と作り上げる関係性のノウハウと職員のモチベーションによる企画力なのだな、と改めて感じました。これらは時間（歴史）の積み重ねがないとなかなか難しいものだと思います。市の歴史、公民館の歴史、職員の歴史の中で市民の活動にコミットメントしていく覚悟のようなものも必要かもしれません。結局は人事管理の話になってしまいますが、意識的に戦略的にやっていく必要がある気がしています。</p>